

令和5年度 倉吉北高等学校 学校自己評価表

学校運営方針

目指す生徒像

- ・いかなる困難に直面しても、強い信念を持って立ち向かう生徒
- ・将来の夢(キャリアプラン)を語る生徒
- ・故郷を愛し、故郷を大切に作る生徒
- ・社会の多様な変化に柔軟に対応できる生徒

目指す学校像

- ・生徒が誇りに思う学校
- ・地域に信頼され、地域から愛される学校
- ・一人ひとりの生徒の進路実現に努める学校
- ・生徒、教職員が元気な学校

今年度の重点目標

- ① 豊かな人間性の育成
- ② 「確かな学力」の育成
- ③ 進路指導の充実
- ④ 部活動等の充実
- ⑤ 社会貢献活動の推進

評価基準

- A:概ね達成(80%程度以上)
 B:変化の兆し(60%程度)
 C:まだ不十分(40%程度)
 D:方策の見直し(30%以下)

評価項目	当初計画			評価結果		
	目指す姿	現状	具体的方策	経過・達成状況	評価	
① 豊かな人間性の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○学校生活全体を通じて、誰にも優しく、親切で、礼儀正しく思慮深い生徒 ○自他を大切に作る生徒 ○差別やいじめのない学校 ○様々な事柄に興味、関心を持つ生徒 ○環境保全に努める生徒 	<ul style="list-style-type: none"> ○しっかりと挨拶が出来る生徒が多い。 ○生徒間の関係はおおむね良好だが、中には人間関係で悩む生徒もいる。 ○人権教育などを通して、差別やいじめのない学校作りを推進している。 ○探究や生徒会活動を通して、SDGsへの意識を高める取り組みをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶運動を継続する。 ○いじめアンケート、Hyper-QU等を通して、生徒からのサインを見逃さず速やかな対応をする。 ○LHRや日常の教育活動を通して誹謗中傷やいじめがない学校を築いていくよう働きかける。 ○持続可能な開発目標の理解を図るために、生徒会を中心とした取り組みを強化する。 ○総合的な探究の時間 課題研究を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○Hyper-QUで、不満足群に属する生徒への対応が迅速ではなかった。 ○部活動での指導の成果もあり、礼儀正しくさわやかにあいさつできる生徒が多い。 ○支援の必要な生徒や不登校傾向生徒に一層の対応が必要。 ○行事、各コース・各類型の取り組み等の校外学習、地域で職業を体験する学習を実施。進路選択における課題の意識づけができた。 ○探究のテーマ設定によってはSDGsへの関心を高めることができたが、全体としての意識づけは工夫が必要。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○校長訓話、教員からの指導を、人格形成、在り方生き方教育の観点を踏まえて充実させる。 ○修学支援会議の定期的な実施が出来なかった。 ○配慮が必要な生徒等に対して学年・教科担任団の連携を密にすると共に、ケーススタディを行うなど修学支援体制を整え、サポートする。 ○定期的な個人面接を充実させる。 ○生徒の良いところを積極的に褒めるよう心がけ、自己肯定感を高める。
② 「確かな学力」の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○授業改革を進め生徒の考える力を高め、進路実現に向けた確かな学力を養成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICTを活用した授業の工夫に一層の努力が必要である。 ○主体的な学びを深めるため、少人数授業や対話的、探究的授業なども取り入れている。 ○学びなおしの必要な生徒もいるため、基礎学力の定着を目的とした朝学習の時間を設定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT研修の定期的な実施と各教科によるICTを活用した授業研究等を実施する。 ○マナトレ(進研)による基礎学力の定着を図る。 ○先進校視察や教員研修で、各教員の授業力向上を図る。 ○協同学習を取り入れた授業を展開する。 ○模試等の結果分析を全教員が共有し、改善策を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○総合コース・調理科の朝学習では、1学期は紙媒体で基礎力育成の小テスト「マナトレ」を実施。2学期以降はiPadでClassiを利用。成績が伸び悩む生徒数が減っている。 ○全学年で1人1台のiPadを購入し、調べ学習や教科学習での利用が進んでいる。また、教師指導と生徒の利用法が適切になされるよう、利用方法の確認、徹底が必要。 ○研究授業の呼びかけが弱く、実施した教員は半数程度にとどまった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○研修を実施し、iPadを利用した研究授業を複数回実施する。 ○教科指導の方法を改善する。特に「主体的、対話的で深い学び」の推進。 ○入試作問とおして中学校教育との接続を研究する。 ○教科研究会の中で新課程の指導内容、評価の仕方等について研究を深める。
③ 進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人一人の能力・適性などに配慮した個別指導を徹底し、進路希望を実現させる。 ・面談指導の充実 ・国公立大学5名以上合格 ・就職率100% 	<ul style="list-style-type: none"> ○特別進学コースでは、放課後補習や土曜補習を実施するなどして、生徒一人ひとりの学力向上に努めている。 ○1年次から実施しているキャリア教育・進路探究において、3年間を通じた取り組みとしての定着が不十分であり、探究学習との連携が必要。 ○3年団での面接指導などの個人指導が徹底されている。 ○模試でSS50以上の生徒数を増やし、国公立大学や難関大学合格者数の増加に向けた進学指導を行っている。 ○就職率は100%であるが、一層の職業観・勤労観を養うことが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○3年間を見据えたキャリアプランを作成し、各生徒の意識付けに努める。 ○担任団による面談を定期的に行い、生徒の心情理解に努めるとともに学習意欲の向上に努める。 ○Classi学習動画などを利用し、家庭学習の充実を図る。 ○朝学習にICTを活用し、課題や弱点克服を図る。 ○ガイダンスや講演会を計画的に実施し、進路意識を高めるとともにキャリア教育の充実を図る。 ○定着指導を通じて、離職率減を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○進路別ガイダンスや体験授業、インターンシップ、自己表現講座(年度末実施予定)など実施し、1、2年生生徒に対しても進路意識を持たせる機会が持てた。 ○共通テストで500点以上を取れている生徒が増え、国公立大学を一般入試で習える生徒が増えた。 ○総合型選抜・学校推薦型選抜に向かう生徒との面談や受験計画が一定程度うまくいっている。国公立大合格の絶対数は多くはないが、しっかりチャレンジする下地は整ってきた。 ○進学・就職とも3段階面接を実施し、成果を上げた。 ○縁故就職や卒業後計画ありの生徒が一定数いるのは課題。 ○大学20名、短大9名、専門等19名、予備校1名、就職26名 計75名(3/25 現在) ○国公立大学合格 鳥取大、山口大、公立鳥取環境大、広島市立大、愛知県立大、下関市立大(2)、水産大 ○就職(内定率100%) 県内80%・県外20% 日本郵便(株)中国支社2、湯快リゾート(株)[青木別館]、アンドリゾート(株)[万翠楼]、ヤマト運輸(株)、宝製菓(株)、(医)至誠会(社)福親誠会[ひまわり]2、オムロンイッチアンドデバイス(株)、(株)ラコーポレーション[三朝館]、一富士アトサービス(株) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○新課程形式の調査書様式、活動報告書への対応を優先する。 ○科・コースごとの大学・専門学校との連携企画も増えてきた。進路選択の取り組み機会を一層充実させる。 ○縁故や卒業後計画など、生徒自身が自分の問題と向き合うことをしない、又出来ない傾向が見られ生徒がいるようになった。年度初めや1学年次よりの面談を綿密に行う。学年との連携や担任間引き継ぎも丁寧に行う。 ○「総合的な探究の時間」における「授業成果を発表する」機会を充実させ、キャリア形成意識を高め、進路実現につなげる。(継続) ○少人数指導のメリットを活かし、細やかなキャリア支援を学年団とともに図り、生徒一人ひとりの満足度のある進路指導に取り組む。(継続)
④ 部活動等の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動等を通して、自主性や向上心、忍耐力、協調性、責任感、連帯感などを育成する。 ○全国大会で活躍する生徒を育成する。 ○県大会優勝 チーム・個人 昨年度以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○礼儀正しい生徒が多く、生徒会活動でも部活動を頑張っている生徒が執行部を運営している。 ○各運動部が中国大会、全国大会を目標にして活動している。 ○目的を持って活動している生徒がいる反面、部活動に加入していない生徒も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各部活動において、競技力の向上だけでなく人間力の向上を目指した活動を推進する。 ○外部指導者も活用し、選手の強化を図る。 ○部活動への勧誘を奨励し、活発な活動を展開する。 ○県内外の優秀な中学生への勧誘を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動部・文化部とも感染症予防ガイドラインに沿って、熱心に活動している。 ○部活動が少ないので、多くの生徒が参加できるような工夫が必要である。 ○部活動、生徒会活動、委員会活動、週番活動について、従来どおりの活動となっていて、生徒の主体性を高める必要がある。 ○中国大会入賞 〇県大会優勝 団体:吹奏楽部 団体:柔道部男女、卓球部女子 個人:柔道部1名 個人:柔道部19名、陸上競技部2名 陸上部2名 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動へ加入を継続的に奨励し、活発な活動を展開する。 ○部紹介など勧誘活動を工夫して継続的に実施する。運動部では競技力の向上を目指す。吹奏楽部ではより音楽性の高い演奏ができるよう活動を充実させる。 ○全国大会入賞は0であったが、中国大会で活躍する生徒は増加した。継続して競技力を向上していく。 ○生徒が自ら考え行動できるように学校生活・校外学習・部活動等を通して導く。
⑤ 社会貢献活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○社会貢献の意義を学び、主体的に行動できるよう、ボランティア活動等に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域や施設でのボランティア活動への参加を積極的に呼びかけている。 ○生徒会、部活動、福祉類型選択者などが活動を行っている。 ○探究活動を通して、地域貢献に関わろうとする生徒も出てきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○クラスや部活動を通してボランティア参加を呼びかける。 ○ボランティア掲示板等を使い、活動を広く生徒に周知し、参加者増に努める。 ○生徒全員が年に1回はボランティア活動を行うように働きかける。 ○外部から依頼されるボランティアのみでなく、内部で計画し募集する 	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア募集を各クラスに掲示し、積極的にボランティア活動に参加するよう呼びかけを行った。 ○ボランティア活動に個人で参加する生徒は減少しているが、部活動で参加する部が増えてきた。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア募集をクラスに掲示し、積極的にボランティア活動に参加するよう呼びかける。 ○ボランティア活動等を通して、社会と交流し自己の在り方生き方を考えさせる場面を設ける等の工夫が必要。 ○外部が募集しているボランティアのみならず、通学路清掃・地域のゴミ拾い等の地域に密着したボランティアも考えさせていく。
⑥ 安心安全な学校生活の確保	<ul style="list-style-type: none"> ○感染症対策、感染防止対応が十分に出来ている学校集団 ○自転車登校する生徒へのヘルメット着用を義務付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ○手洗いは徹底されてきたが、教室、部室等の衛生管理の徹底が必要 ○教室内の換気は毎時間行っている。 ○マスクの着用を任意にしているが、ほとんどの生徒がマスクを着用している。 ○登下校時の確認。 ○関係機関と連携し研修会等を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝の体調チェックを徹底する。 ○手洗い、換気、消毒を徹底する。 ○寮におけるガイドラインを守り、規則正しい生活をする。 ○授業内容及び行事など感染対策を継続して行う。 ○登下校時に正門での確認及び継続してヘルメットの着用を呼びかけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ヘルメットの所有率はかなり高くなったが100%ではない。また、校外で着用しているかが不透明な部分がある。 ○朝の体調チェックは有名無実化しつつあるが、寮生のそれはガイドラインに則って毎日実行。手洗い換気の呼びかけは徹底していた。 ○学校行事における感染症予防対策は、コロナ禍ほどではないが、徹底していた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○継続して定期的な正門指導を組織的に実施するとともに、生徒にヘルメット着用の意義を考えさせる機会を作る必要がある。 ○感染症予防には、手洗い、換気、消毒という地道な努力が効果を成し、それが必要なことを教員が実践し繰り返し言い続けることが必要。